

| | |
|---|---|
| 1 | チーム名 (研究対象領域・教科) 自立活動 (高等部類型ⅡC・D) |
| 2 | メンバー 高等部教員 6名 |
| 3 | チームのテーマ 生徒が興味・関心をもって取り組める活動を見出すために |
| 4 | 対象児童生徒に願う主体的な姿 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">2年生徒A</div> ○座位や立位で活動に取り組む姿。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">1年生徒B</div> ○教師の働きかけを受け入れて活動する姿。 ○対象物に注意を向けたり、手で操作したりする姿。 |
| 5 | 研究仮説① <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">2年生徒A</div> ○活動に取り組む生徒の様子を見ながら活動内容を工夫し、継続していくことで、主体的な姿が見られるようになるのではないか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">1年生徒B</div> ○指導方法を工夫しながら継続して取り組むことで、主体的な姿が見られるようになるのではないか。 |
| 6 | 研究実践の内容① <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">2年生徒A</div> (1) 40分程度の歩行、ストレッチの継続 5・6月→給食後は横になろうとすることが多い。現場実習(コパン)でもどこでも横になり、ぐずることが多かった。ドライブではチャイルドシートに落ち着いて座れない。 椅子に座る機会を増やす。 10月→修学旅行では、自分の荷物を背負って、集団に遅れることなく歩くことができた。それぞれの見学や体験をぐずることなく過ごすことができた。給食後短時間、椅子に座って、過ごすことができるようになってきた。現場実習(あすか)ではぐずったりすることもあったが、事業所での活動(歩行、紙ちぎり、雑巾がけ、たいこ)をすることができた。 (2) 本人が関心を持つと思われる、鏡、鈴、動くもの、スコープを使う。 5・6月→本人が気の向く時や体調の良い時には反応を示す。座っていることが難しく、ぐずりだすことが多い。スコープは関心を持ち、3回位は自分で持ち、扱うことができた。 10月→短時間座ることができるようになり、見ての活動ができるようになってきた。絵本を持ってみるが見られるようにもなってきた。座る活動を続けることにより、促されることなく、自分から帽子やハンカチを持って、座ることができるようになってきた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">1年生徒B</div> (1) 「ボッチャをしよう」(スポーツフェスティバルに向けて) ○はじめの頃(ボッチャボールに対してどのような反応をするのか) ・ボールを握って持ち、口に持っていった。1, 2回口に持っていった後はボールを握ろうとしなくなる。 |

↓
○ランプスでの投球（ボールを手で押さえ、手前に動かしてランプスに入れる動き。）
・ボールを手で押さえるように補助するも、手を引っ込める様子が見られる。

↓
指導方法の工夫

「食休み中など、すき間の時間にボールに触れるようにする」

継続して取り組む

「毎週水曜、木曜、金曜の3校時目に取り組む」（11月14日の週から12月5日の週まで4週間）

↓
変容：教師の補助を受けながらボールを手で押さえることができるようになった。また、ボールを手で押さえた後、ボールを手前に動かしてランプスに入れることができるようになった。

7 成果と課題

2年生徒A

歩行とストレッチの継続により、体力が付き、休むことなく学校での活動ができるようになってきた。同じ流れを繰り返すことにより、自分で活動することができるようになってきた。課題としては、ぐずる時間を短くしたい。椅子に座っての活動に慣れ、興味関心が持てる活動を増やしたい。絵本や音楽等にも関心が持てるとういと思っている。

1年生徒B

ボッチャボールに触れる時間を設定することで、ボールに触れることへの抵抗感が減少した。継続して投球に取り組むことで、ランプスにボールを入れることができるようになった。教師の補助を受けずに、自分からボールに手を伸ばすことができるようになるとさらに良い。対象生徒は食べることに對する意欲が高いが、その他については食べることに對する意欲に比べると反応が少ない。興味・関心をもって取り組めることを増やしていければと思い、仮説を立てて実践検証を行った。今回の例を通して、さまざまな活動を「方法を工夫しながら継続して取り組む」ことは、それに向かうひとつのアプローチとなり得るのではないかと考えている。

【全体を通して】

本チームは2つの学級で構成されている。両学級とも、在籍生徒の実態から、「指導内容や学習活動の精選」について留意しながら指導にあたっている。また、今回の研究を通して、「行事」を活用しながら個々の課題に迫ったことも両学級の共通点として挙げられる。本テーマにおける「指導内容や学習活動の精選」と「行事」との関連について学級間で意見交換し、研修を深めていきたい。